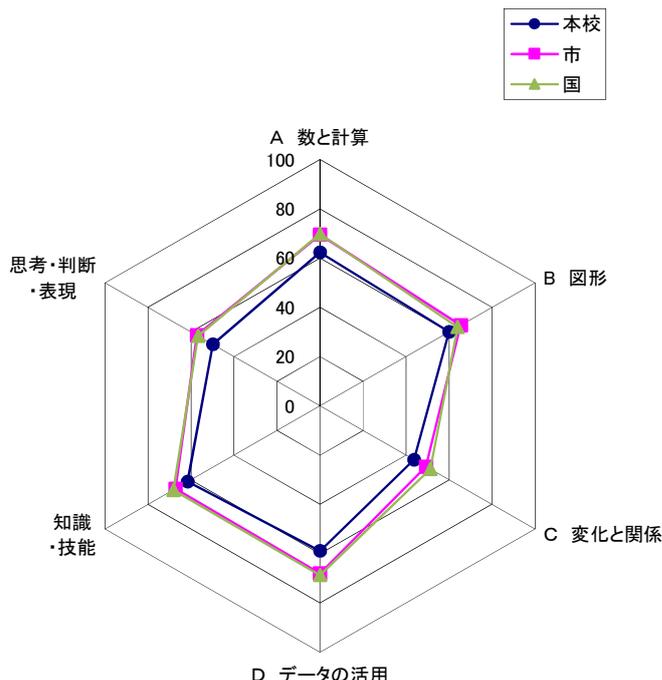


宇都宮市立宝木小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	62.3	69.5	69.8
	B 図形	60.0	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	43.7	49.3	51.3
	D データの活用	58.9	68.0	68.7
観点	知識・技能	61.6	67.3	68.2
	思考・判断・表現	49.9	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>○かけられる数に0のある整数の乗法の計算をする問題の正答率は、89.3%で、他の問題と比較すると正答率が高く、平均並みである。</p> <p>●表のしりとり欄に入る数を求める式と答えを書く問題の正答率は61.2%で、全国平均の75.3%と比べると14.1ポイント低い。この問題は、データ活用の領域とも関連しており、他の領域と関連させる問題に困難さを感じている児童が多いと考える。</p>	<p>・倍数や約数など数の見方や大きな数の除法や四則が混ざった計算の理解が不十分である。図や数直線を用いて視覚的に理解できるよう工夫して指導する。また、視覚的に捉えさせる機会を設けることで、必要な情報を得たり、立式につなげたりできるようにしていく。</p> <p>・複数の領域と関連させた問題に慣れ親しめるよう、授業にも様々なタイプの問題を取り入れていく。その際に、考えを伝え合う活動を取り入れ、さらに個人の考え方を深め思考力の育成を図りたい。</p>
B 図形	<p>○全体的に他の領域と比べると、全国平均並みのポイントである。また、どの問題においても、全国・県の平均と比べても無解答率が低い。</p> <p>●示されたプログラムでかくことのできる図形を選ぶ問題の正答率は、51.5%で、全国や県の平均と比べると6.1ポイント低い</p>	<p>・図形の性質や構成の仕方については、基本的な問題に取り組むことで理解の定着を図る。また、タブレットを活用したプログラミング学習を充実させることで、得た知識を活用する機会を増やし、様々な問題に反映できるようにしていく。</p>
C 変化と関係	<p>○果汁が含まれている飲み物の量を半分にした時の果汁の割合について答える問題の正答率は21.4%で全国平均と同等で、県の平均と比べると3.8ポイント高い。</p> <p>●この領域に関する問題では、どの問題も全国平均を10ポイント近く下回っている。</p>	<p>・割合の問題の定着が不十分であるので、「割合」と「比較量」「基準量」の関係について丁寧に説明し、基礎的な内容の定着を図る。</p> <p>・家庭学習などにおいて、繰り返し基礎基本の問題に触れさせることで、確実な定着を図るようにしていく。</p>
D データの活用	<p>○割合を調べるための円グラフを選択し、必要な情報を読み取る問題では、正答率は、60.2%で、他の問題と比較すると正答率が高い。</p> <p>●データを読み取ったり、グラフを読み取ったりする問題では、どの問題も全国・県の平均を下回っており、分類整理されたデータから選択する問題は、7.6ポイント低い。</p>	<p>・文章が長く一貫性が必要な問題に対する苦手意識が見られるため、日頃から文章問題に数多く取り組み問題に慣れさせるとともに、問題文を図や数直線に表す活動を取り入れ、問題の意味が理解できる力を育成していく。</p> <p>・他教科でも表や円グラフなどからの読み取りを行い、様々な問題に触れさせることで、定着を図る。</p>